

 福島県指定重要文化財

# 四穂田古墳 出土品

よほだこふんしゅつどひん

東・北・地・方・唯・一・の・短・甲

福島県中島村

# 四穂田古墳について



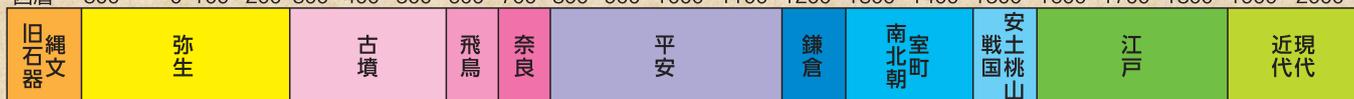
今から約1400～1800年前、各地に有力者の大きな墓が造られた時代を「古墳時代」といいます。墓の大きさ・形や、墓に供えられた物は、当時の社会の構造や、埋葬された人物がどのような地位にあったかをあらわしています。

2011年9月、中島村町畑地区において東日本大震災により被災した共同墓地の造成工事が行われた際、東北地方初例となる鉄製短甲（よろい）を含む武器・武具などの古墳副葬品が出土しました。これにより阿武隈川左岸の自然堤防上の墓地を含む塚状の高まりが、字名から「四穂田古墳」と名付けられました。副葬品の特徴から、四穂田古墳は古墳時代中期中ごろ（西暦5世紀前半～中葉）につくられたと考えられます。

これほど豊富な副葬品が出土した中期古墳は県内では例がなく、古墳時代中期に大和政権から武具を与えられる有力な人物がこの地域に存在していたことを示す大変重要な古墳です。

出土品は、2014～2016年に修復を受けた後、2018年4月に福島県指定重要文化財に指定され、現在は福島県立博物館（会津若松市）において保管・管理されています。中島村生涯学習センターにはこれらの複製品等が展示されています。

西暦 300 0 100 200 300 400 500 600 700 800 900 1000 1100 1200 1300 1400 1500 1600 1700 1800 1900 2000



▲四穂田古墳

## 四穂田古墳の位置

遺跡MAP④7

四穂田古墳は、中島村の南東に位置し、阿武隈川左岸に形成された河岸段丘の直上に築かれ、西側には道路を挟んで水田が広がっています。水田側から四穂田古墳を見ると1m弱ほどの高まりがあり、その高まりは数十メートルほど伸びており、高まりの東西の幅は1.5mほどです。一方段丘崖側からみると2～3mの高さがあります。

四穂田古墳の規模や形状については、田畑の整備ならびに道路・墓地の造成のため、開発以前の地形を復元することは困難で、現時点では不明となっており、今後更なる調査を行い解明する必要があります。



四穂田古墳位置図



四穂田古墳全景（西側から撮影）

## 三角板鋌留短甲 ～さんかくいたびょうどめたんこう～

後胴の大型破片を含む大小20数点程の破片として発見されました。右前胴の多くと後胴の一部の破片が見つかりませんが、全形や作り方はよくわかります。

調査の結果、三角板の鉄板を組み合わせ鋌で留める「三角板鋌留短甲」と呼ばれる短甲（よろい）であることがわかりました。短甲は、古墳時代中期（西暦4世紀末～5世紀末）に新たに登場する副葬品の一つで大和（奈良県）を中心に分布し、大和政権との密接な関係を示す証として各地の有力者に与えられたものと考えられています。

四穗田古墳の短甲は、その作り方や形状から三角板鋌留短甲の中でも古い段階のものと考えられます。

日本列島の短甲のこれまでの出土例の北限は新潟県や栃木県であり、本例は東北地方で初めて出土した古墳時代の短甲です。また短甲は、関東地方を含めた範囲でも出土例が少なく、大変貴重な資料といえます。



残存高：前胴部 34.0cm、後胴部 39.3cm

# 出土品

## 大刀 ~たち~

大刀3口は、すべて茎（柄）部分が非常に古い時代に失われたと考えられ、残存する長さが65cm前後と近い値を示すことから、副葬時に意識的に茎が切り取られたと判断されます。刀剣が意図的に破壊されたり折り曲げられたりした状態で出土する例が知られていますが、中期古墳からこうした例が発見されることは非常に珍しく、古墳被葬者の埋葬にあたり、何らかの儀礼が執り行われた可能性を示す貴重な例です。

また刀身両面に鞘木の跡が残っています。



**大刀1** 遺存長67.3cm。切先から刀身の1/3程度の部分で折れ曲がっています。



**大刀2** 遺存長63.8cm。



**大刀3** 遺存長66.1cm。

## 鉄鏃 ~てつぞく~

鉄鏃は矢の先端につける鉄製の武器で、古墳時代には様々な形態のものがあります。

形態的な特徴から四穂田古墳の鉄鏃の年代は古墳時代中期中頃を上限にすると考えられます。



**鉄鏃1**

ちょうけいぞく  
遺存長9.1cm。長頸鏃の一部。矢柄の木質、有機物が遺存しています。



**鉄鏃2**

ゆうけいぞく  
遺存長2.9cm。有頸鏃の一部。

## 鉄 鉋 ～てつやりがんな～

鉄鉋は板を平滑にするために用いる鉄製の槍のような形をした工具です。現在も昔ながらの方法で建てられる寺や神社の工事の際に使用されています。



鉄鉋 1

全長14.2cm。刃部の断面が三角形で、柄の木質と巻きつけ紐がわずかに残存しています。



鉄鉋 2

遺存長8.6cm。木片が残存しており一部が大きく変形しています。

## 砥石 ～といし～

凝灰岩製。大型品は全長20.5cmで4面の長側面が使用されています。砥ぎ減りが著しく、斧や剣などの大型の鉄製品を研ぐために用いられたと考えられます。小型品は長さが9.2cmの扁平な形状で、古墳時代中期に出現する提砥と呼ばれる携帯用の砥石に類似し、刀子（ナイフ）や鎌などの小型の鉄製品を研ぐために用いられたと考えられます。

どちらも表面には長期にわたり鉄製品が接していたと考えられる錆が付着しています。



## 鉄 斧 ～てつぼ～

全長10.0cm。楔型の刃部と断面が丸い袋部からなります。袋部に柄を差し込んで使用します。



## 土師器 ～はじき～

確認調査時に出土した土器の小破片です。2.6cm×5.9cmの大きさと器壁は4mmと薄く、小型壺の肩部と思われます。少破片であったため、土師器をもとに四穂田古墳の年代を推定することはできませんでした。



# 出土品からみる 古墳に埋葬された人物像

古墳時代当時、鉄製品はとても貴重なものであり、それらを多数所持することは、権力の大きさを意味すると考えられています。四穂田古墳から出土したよろい・大刀・やじりから「軍事」を、斧・ヤリガンナから「生産」をつかさどる人物であったことが想定でき、四穂田古墳に葬られた人物が非常に強い権力をもっていたと推定されます。

また四穂田古墳の三角板鋳留短甲は、福岡県行橋市稲童21号墳から出土した短甲と、極めてよく似ており、大和政権から最先端の武具を与えられる極めて有力な人物が、中島村付近に拠点を置いて活動していたことを示しています。



復元品(生涯学習センター輝ら里展示品)



## 中島村の古墳時代

古墳時代には、中島村に多くの方が住んでおり、鉄刀が出土した蝦夷穴12号墓をはじめ、四穂田古墳の南側に存在した大塚古墳、朝日塚古墳群、代畑古墳群・西内横穴墓群・原田古墳群・向山古墳群、大型住居跡や多数の土師器が出土した新田遺跡、館山・滑津原・羽黒裏・岡ノ内・松崎・弘法塚山・日向内遺跡など遺跡が多く存在します。

## 新田遺跡 遺跡MAP④



新田遺跡出土品(生涯学習センター輝ら里展示品)



# 中島村指定文化財



遺跡MAP⑭

## あせ じぞう 汗かき地蔵

代畑地区の堂内に安置されている座像高約170cmの地蔵菩薩像で、建立年を示すように建武2年(1335年)と刻まれています。古来、事変などの起こるとき、この地蔵の五体から汗がふき出すとの伝説があり、奥州汗かき地蔵と呼ばれ、参詣人が多数いましたが、明治維新以降衰退したと郡誌に記されています。



遺跡MAP⑮

## はくさんひめじんじゃしたまがいぶつくん せきぶつ 白山吡咩神社下磨崖仏群及び石仏

磨崖仏は平安後期頃、供養塔婆としてつくられ、県内でも古い石造文化財です。石仏は明治初期の神仏分離令に乗じて棄却した三十三観音の一部で工事の際に出現しました。明治二年以前は、旧白山大権現社境内に三十三観音菩薩像を安置したものです。



遺跡MAP⑳㉑㉒

## みじょうちないまがいぶつあみだざぞう 御城地内磨崖仏阿弥陀座像並びに せきぞうとうぼくん せきぶつくん 石造塔婆群及び石仏群

磨崖仏は県下でもっとも早く作られたと県史に記されています。阿弥陀座像は建治4年(1278年)に刻まれた線彫絵姿仏にして県内では珍しい磨崖浮彫像です。石造塔婆群は鎌倉中期から十三観音菩薩像で明治維新の神仏分離の際に棄却された石仏です。



遺跡MAP④⑧

木造聖観音菩薩坐像▶

## じょうらいざんぜんつうじ もくぞうせいかなのんぼさつぞう 常瀬山善通寺の木造聖観音菩薩坐像

室町時代(1336年~1573年)に当地方で造立されました。この像は当初、一堂の本尊として造立されたものと考えられ、室町時代の当地の在地領主層の造像や在地仏師の活動を知ることが出来る遺品として、中世の少ない当地にとって貴重な物といえます。



銅像薬師如来立像懸仏

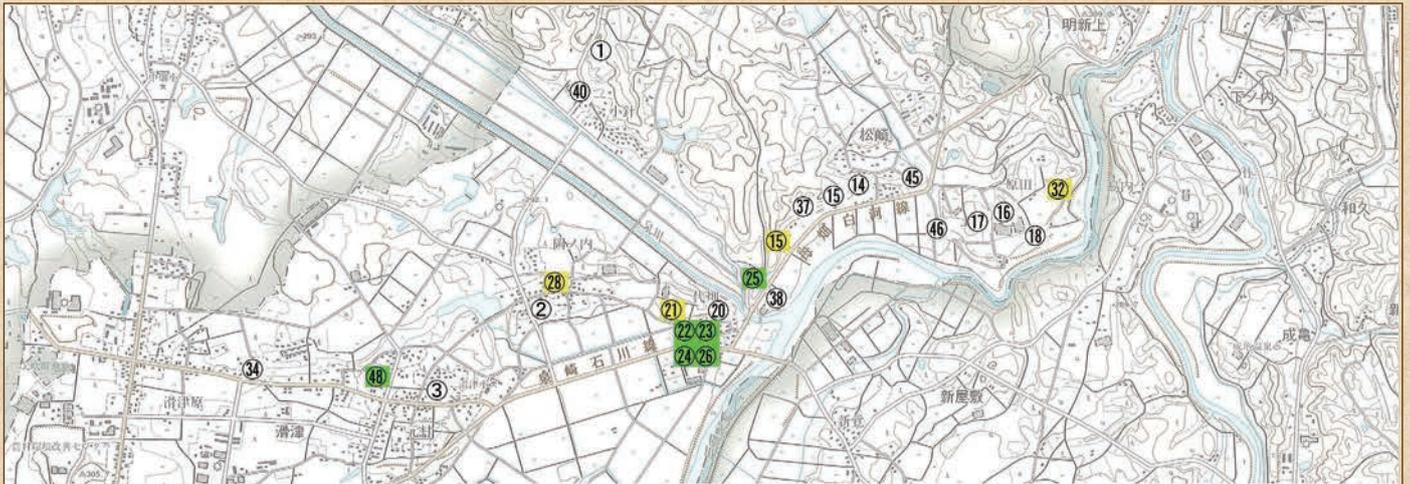


銅造聖観音菩薩立像懸仏

## じょうらいざんぜんつうじどうぞうやくしによらいつぞうかけぼとけ 常瀬山善通寺銅像薬師如来立像懸仏(左) どうぞうせいかなのんぼさつりつぞうかけぼとけ 銅造聖観音菩薩立像懸仏(右)

懸仏は神仏習合により生まれたもので、円い鏡状のもの、すなわち鏡板に神の本来の姿の仏像を現したものです。この懸仏のように青海波文のように表現しているのは両懸仏が江戸時代中期頃の制作であることを示しています。両懸仏の伝来については明確ではなく、近隣の神社から当寺に移されたものです。江戸時代のこのような華やかで、丁寧に制作している懸仏はあまり例をみない珍しい遺品です。

# 中島村遺跡MAP



遺跡・文化財一覧表

番号	遺跡名称	時期	番号	遺跡名称	時期
1	赤坂窯跡	奈良・平安	26	代畑磨崖仏	中世
2	岡の内遺跡	古墳	27	向山古墳群	古墳
3	羽黒裏遺跡	古墳～平安	28	朝日塚古墳群	古墳
4	新田遺跡	縄文～古墳	29	館山館跡	中世
5	長福円寺跡	中世～近代	30	館山遺跡	古墳～平安
6	東塚遺跡	縄文	31	堂ヶ作遺跡	縄文～平安
7	東塚石造供養塔	中世	32	原田古墳群	古墳
8	西内横穴墓群	古墳	33	山神山遺跡	平安
9	法性寺跡	中世～近代	34	滑津原遺跡	古墳～平安
10	天王山遺跡	中世	35	後山遺跡	中世
11	天王山石造供養塔群	中世	36	東塚塚群	不明
12	町畑遺跡	古墳～平安	37	薬師堂跡遺跡	近世
13	来迎寺石造供養塔	中世	38	大泉院跡	近世
14	蓮花寺跡	中世～近代	39	東畑遺跡	縄文・奈良・平安
15	蝦夷穴横穴墓群	古墳	40	上入久保遺跡	奈良・平安
16	松崎遺跡	縄文～古墳	41	弘法塚山遺跡	古墳～平安
17	松崎館跡	中世	42	勘次郎山遺跡	縄文・平安・近世
18	住古遺跡	縄文～平安	43	日向内遺跡	古墳
19	(No.2岡の内遺跡)		44	大塚古墳	古墳
20	滑津館跡	中世	45	松美遺跡	不明
21	代畑古墳群	古墳	46	月山遺跡	不明
22	代畑石造供養塔群	中世	47	四穂田古墳	古墳
23	絵姿磨崖仏	中世	48	木造聖観音菩薩坐像	中世
24	汗かき地蔵	中世		銅像薬師如来立像懸仏	近世
25	白山毗咩神社下磨崖仏群	中世		銅造聖観音菩薩立像懸仏	近世

■ 古墳（消滅した古墳も含む）

■ 村指定文化財



## 四穂田古墳への案内図（略図）



## 四穂田古墳

発行/中島村 中島村教育委員会

〒961-0102

福島県西白河郡中島村大字滑津字二ツ山28-10

TEL. 0248-52-2503

FAX. 0248-52-3005

編集協力/福島大学・福島県立博物館

イラスト協力/にぎ

※このパンフレットは平成30年度(2018年)文化庁補助金  
「地域の特徴ある文化財活用事業」により製作されました。



中島村イメージキャラクター  
なかにぞうさん